


研修員's VOICE

Vol. 10

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。



氏名: Mr. DO ESPIRITO SANTO FERREIRA
Fradique (フラディークさん)

国名: サントメ・プリンシペ民主共和国 

コース名: 島嶼水環境の保全と管理コース

滞在期間: 2018年1月28日 - 2018年3月10日

サントメ・プリンシペってどんな国ですか？

西アフリカのギニア湾に浮かぶサントメ島、プリンシペ島及び周辺の島々からなる島嶼国で、ガボン沿岸から約**250km**西に位置しています。面積約**1,000km²**(沖縄県の半分以下)、人口約**20万人**で、人口の**96%**が首都のあるサントメ島に集中、**15歳**以下の若い世代が人口の**42%**を占めています。

基幹産業は観光と農業で、輸出額の**94%**はカカオです。旧ポルトガル領であったため言語や建物、食文化にもポルトガルの影響が残っています。



サントメ島のシンボル“サントメ山”(2,024m)



サントメ島の浄水処理施設

水環境の現状と課題は？

サントメ・プリンシペは降雨量も多く、**50以上**の河川と豊富な地下水もあるのですが、水道が普及していない地域が**14%**あります。下水道の普及率も低く、家庭排水をそのまま河川に流しているため、環境汚染も問題になっています。また老朽化した水道管からの漏水が数多く発生し、せっかく処理した水が無駄になり、収益が上がらないなど、組織の運用管理も大きな課題です。

どのような研修をしていますか？

水道・電力公社の水質検査技師として勤務していますが、幅広い視点から水環境の保全と管理を学ぶため研修に参加しました。

日々の研修では水環境教育、漏水対策、赤土流出対策、簡易水質調査、離島での浄水/下水処理などを学んでいます。渡嘉敷島、宮古島、石垣島では、離島がどのように課題を克服したかを学んだので、学んだことを同じ島嶼国である自国に活用していきたいと思えます。



研修で訪れた渡嘉敷島の国立公園